

2016年度 九州大学 前期 地理

〔1〕 都市問題

| | |
|-------|--|
| 出題範囲 | 人口, 都市 |
| 難易度 | ★★★☆☆ |
| 所要時間 | 41分 |
| 傾向と対策 | 都市問題に関する複合問題。インナーシティ問題やジェントリフィケーション, インフォーマルセクターなどといった, センター試験レベルでも頻出の内容が問われている。要求されている知識のレベルは高くないが, 因果関係を明確にして解答を作ることができるかどうかがかぎとなる。記述問題では, 設問要求に対応した要素をピックアップして, それら要素どうしをうまくつなげる文章力も要求されている。記述問題の演習を十分にこなしておこう。 |

《この解説の使い方》

黒太字 …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句を黒太字で記載した

赤字 …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

青字 …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい地名を青字で記載した

《字数について》

マス目付き解答欄について, 英字・算用数字は「1マスにつき最大2文字」書くことを前提として計算した

例 800年の場合

| | | |
|----|----|---|
| 80 | 0 | 年 |
| 8 | 00 | 年 |

1200年の場合

| | | |
|----|----|---|
| 12 | 00 | 年 |
|----|----|---|

ASEANの場合

| | | |
|----|----|---|
| AS | EA | N |
|----|----|---|

解答例

問1. A - ニューヨーク, B - 上海, C - メキシコシティ, D - ムンバイ

問2. 都心部では施設の老朽化や都市公害の深刻化により住環境が悪化したため, 高所得者を中心に郊外へ人口が流出し, 郊外化が進行した。人口が流出し低所得層が残された都心部では, スラム化や地域コミュニティの崩壊などといったインナーシティ問題が顕在化し, 都市の衰退がみられるようになった。近年では再開発により高級化が果たされた都心部に高所得層が流入し, ジェントリフィケーションとよばれる現象がみられている。(196字)

問3. 発展途上国の都市は植民地支配の拠点がおかれていたものが多く, インフラ整備は都市部で重点的に行われてきた。また, 戦後は外資による工業化の拠点到ることが多くなっている。そのため, 都市部と農村部の所得格差や生活格差が非常に大きくなり, 農村部の余剰労働力が都市部へ大量に流入し続けている。その結果, 都市部の雇用や生活インフラが不足し, インフォーマルセクターに従事する人が増加している。

人口に見合ったインフラの整備も追いついていない。交通インフラの未整備により都市公害が深刻化するほか、上下水道などの生活インフラが整備されていないため貧困層は生活環境が劣悪な場所に居住し、スラムが形成される地域もある。(298 字)

問 1. 難易度：★★★★☆

解答

A - ニューヨーク, B - 上海, C - メキシコシティ, D - ムンバイ

解説

都市圏人口ランキングの推移と都市人口率から該当する都市を考える問題。一般に、経済発展が進んだ国ほど産業が高度化しており、都市部に労働者が集中するため、都市人口率が高くなる。また、経済成長が遅れている国ほど第 1 次産業従事者が多く、都市人口率が低くなる傾向がある。

- A 都市人口率が最も高い。また、1960 年の時点で都市圏人口が非常に多く、1960 年から 2010 年にかけての増加率がかなり低い。ニューヨークが該当する。
- B 都市人口率は中程度である。発展途上国である中国の都市、上海が該当する。中国は工業化の進展に伴い都市への人口集中が進んでいる。
- C 都市人口率は高い。メキシコの首都、メキシコシティが該当する。新大陸では入植地に都市が形成され、都市を中心として周辺部への開拓が進められてきた。また、農村部では大規模農場で労働生産性の高い農牧業が営まれている。そのため、新大陸諸国の都市人口率は概して高い。さらに、ラテンアメリカの農村部では今なお大地主による大土地所有制が残存していることも、都市人口率が高くなる要因の 1 つとして挙げられる。
- D 都市人口率が最も低い。経済発展が遅れているインドの都市、ムンバイが該当する。インドは第一次産業従事者比率が約 50 パーセントと非常に高い(2012 年)。なお、ムンバイはインド最大の貿易港を持ち、綿工業を中心に機械や石油化学などのほかの工業、さらには IT 産業も立地している。このように、近年発展が著しいムンバイが、大きく順位を上げている D だとわかる。

ちなみに、新大陸以外に都市人口率が高くなる地域として砂漠地域が挙げられる。これは、オアシス都市以外ではほとんど人間生活が営まれていないためである。

問 2. 難易度：★★★★☆

解答例

都心部では施設の老朽化や都市公害の深刻化により住環境が悪化したため、高所得者を中心に郊外へ人口が流出し、郊外化が進行した。人口が流出し低所得層が残された都心部では、スラム化や地域コミュニティの崩壊などといったインナーシティ問題が顕在化し、都市の衰退がみられるようになった。近年では再開発により高級化が果たされた都心部に高所得層が流入し、ジェントリフィケーションとよばれる現象がみられている。

(196 字)

解説

先進国の都市圏内部の変化と都市問題について考える問題。この設問の指定語句は解答を組み立てる際に大いに役立つ。指定語句はいずれも基本単語であるので、少なくともすべての語句について正確に説明できるようにしておこう。

先進国における都市圏内部の変化は郊外化と都心回帰の2つの段階にわけて捉えることができる。古くから発達してきた都心部では、生活インフラや公共施設などの老朽化が進んでいた。また、人口が集中したことで大気汚染や水質汚濁、騒音などの都市公害による生活環境の悪化が深刻になっていた。そのため、金銭的に余裕のある高所得者を中心に生活環境がよい郊外に移住する動きが強まった。それに伴い商業施設等の移転も進み、郊外化が進行したのである。こうして人口が流出した都心部では、さらなる施設の老朽化、コミュニティの崩壊、地域行政の機能不全などの問題(インナーシティ問題)が発生した。さらに、郊外化の過程で市街地が無秩序に拡大するスプロール現象もみられるようになった。

アメリカの郊外化は特徴的である。アメリカの都市では人種や民族による居住分離(セグリゲーション)が発生しており、比較的裕福な白人は郊外、ヒスパニックや黒人は都市部のスラム地区に居住する傾向が強い。ヒスパニックや黒人の失業率は高く、貧困層の分布ともある程度一致している。

近年では再開発が行われたことで都市部の住環境が改善し、住宅や商業施設の高級化が進んでいる。そのため、職場や商業施設への近接性を求めて高所得層を中心に逆に都心部へ人口が流入するようになっている。こうした都心部の高級化現象はジェントリフィケーションと呼ばれている。都市の再開発の例としてはロンドンのドックランズが挙げられる。ドックランズは19世紀の海洋大国イギリスを支えた港湾都市である。しかし、船舶輸送のコンテナ化などの近代化についていくことができず衰退し、スラムが形成されていた。現在では再開発により高層ビルが立ち並ぶビジネスセンター、高級住宅街へと生まれ変わった。このような海岸沿いや川沿いの地域の開発をウォーターフロント開発という。

◆参考

発展途上国の都市問題

ここで、発展途上国の都市問題の流れをおさえておこう。

農村部の人口過多+都市部と農村部の格差拡大

↓

農村部から押し出されるようにして都市部(特にプライメートシティ)に人口が流出

↓

都市部では急増する人口にインフラ整備が追いつかず、都市問題が深刻化

問 3. 難易度：★★★★☆

解答例

発展途上国の都市は植民地支配の拠点がおかれていたものが多く、インフラ整備は都市部で重点的に行われてきた。また、戦後は外資による工業化の拠点にされることが多くなっている。そのため、都市部と農村部の所得格差や生活格差が非常に大きくなり、農村部の余剰労働力が都市部へ大量に流入し続けている。その結果、都市部の雇用や生活インフラが不足し、インフォーマルセクターに従事する人が増加している。人口に見合ったインフラの整備も追いついていない。交通インフラの未整備により都市公害が深刻化するほか、上下水道などの生活インフラが整備されていないため貧困層は生活環境が劣悪な場所に居住し、スラムが形成される地域もある。(298 字)

解説

発展途上国で大都市に人口が集中している理由と、そこで発生している都市問題について考える問題。人口が集中している理由は書きにくかったかもしれない。先進国との経済関係に注目するとわかりやすい。

発展途上国の多くは第二次世界大戦以前には植民地支配を受けていた。発展途上国の都市は欧米列強による植民地支配の拠点がおかれていたものが多く、大都市で重点的にインフラ整備などの都市開発が行われてきた。戦後、外国資本は大都市周辺などに進出し、都市部では工業化が進展した(歴史的背景)。しかし、農村部では現在も貧しい農民が多く、生活インフラも未整備であるため都市部との所得格差、生活格差が拡大した。また、農村部でも医療や衛生環境が改善したために人口爆発が起こり、農村部では就労機会に恵まれない余剰労働力が都市部へ多く流入している(地理的・経済的要因)。

その結果、都市部で雇用が不足し、余剰労働力はインフォーマルセクター(政府の把握する経済活動に含まれない、靴磨きや日雇いなどの仕事)に従事するようになった(大都市内の職業の特徴)。また、都市のインフラ整備は増加する人口に追いつかなくなり、生活環境が悪化している。貧困層も増加しており、治安は悪い(大都市で発生する問題)。交通インフラの整備が不十分であるため交通公害が深刻化しているほか、低所得層はインフラが未整備の地域に住み着くことが多く、スラムが形成されている(居住構造の特徴)。こうした問題は現在も解決されていない。

◆参考

先進国の代表的な都市問題

・ドーナツ化現象

都心部の地価高騰や住環境悪化のため都市部から郊外へ人口が移動する現象。日本では、1960年代の高度成長期から1980年代後半のバブル期にかけて進行した。

・スプロール現象

住宅や工場が無秩序に郊外へ広がっていく現象。地価が安い都市周辺部での無秩序な開発が問題となっている。

・インナーシティ問題

都心内部の人口減少や高齢化により住宅の老朽化、行政サービスの低下がもたらされる。

(來住直哉, 高橋粒)

2016年度 九州大学 前期 地理

(2) BRICs

| | |
|-------|---|
| 出題範囲 | 農牧業, 資源・エネルギー, 工業, 経済, 産業概論 |
| 難易度 | ★★★☆☆ |
| 所要時間 | 42分 |
| 傾向と対策 | BRICs 諸国の農牧業, 工業に焦点を当てた出題。共通点, 相違点を適切にバランスよく指摘することができたかどうかで差がつく問題である。要求されている知識レベルは基本レベルである。記述問題の演習を通して自分のもっている知識を上手に運用できるよう訓練しよう。 |

《この解説の使い方》

黒太字 …この試験で合格点を取るために暗記が必要な頻出語句を黒太字で記載した

赤字 …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

青字 …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい地名を青字で記載した

《字数について》

マス目付き解答欄について、英字・算用数字は「1マスにつき最大2文字」書くことを前提として計算した

例 800年の場合

| | | |
|----|----|---|
| 80 | 0 | 年 |
| 8 | 00 | 年 |

1200年の場合

| | | |
|----|----|---|
| 12 | 00 | 年 |
|----|----|---|

ASEANの場合

| | | |
|----|----|---|
| AS | EA | N |
|----|----|---|

解答例

問1. A - ロシア, B - ブラジル, C - 中国, D - インド

問2. 国土が広いため広大な用地を確保することができ、非常に人口が多く豊富な労働力を確保することが可能である。さらに豊富な天然資源を有しているので有望な市場として注目されている。中国では改革開放後経済特区の設置などを進めて外国資本を積極的に取り込んでおり、インドも経済自由化を進め高い数学力と英語力を生かし情報通信産業を中心に発展しているほか、ロシアやブラジルは近年の資源価格の上昇を背景に自国の豊富な資源の輸出を拡大している。海外資本を受け入れることで農業から鉱工業へと主要産業を転換し、経済発展を遂げた。(250字)

問3. 両国とも温暖な気候を生かし、植民地時代からプランテーションでの商品作物の栽培が発達してきた。ブラジルでは大規模農場で粗放的な農業が行われ、サトウキビ、コーヒー豆、大豆などの商品作物の生産が特に多い。インドでは労働集約的な農業が行われ、米、小麦などの自給的作物の生産が比較的多い。両国

とも牛の頭数が多いが、ブラジルは企業的放牧による食肉の生産が多く、インドは宗教上の理由で牛乳の生産が多い。(194字)

問1. 難易度：★★★★☆

解答

A - ロシア, B - ブラジル, C - 中国, D - インド

解説

BRICsの統計データの表を見て該当する国を考える問題。基本問題であるので確実に得点したい。

- A **天然ガスの生産量**が突出して多い。これは**ロシア**が該当する。天然ガスは原油、石油製品に次ぐロシアの主要な輸出品目である(2015年)。パイプラインを通じてヨーロッパ諸国へ輸出されている。近年では**サハラ**を経由して日本への輸出も拡大させている。天然ガスは外交カードとしても利用されており、天然ガスはロシアの経済、外交を支える重要な資源である。なお、アメリカでシェールオイルの技術が実用化されたことで、21世紀に入ってからアメリカの天然ガス生産量が増加している。
- B **ブラジル**が該当。ブラジルは鉱工業が盛んであり鉄鉱石などを多く輸出しているが、天然ガスはあまり生産していない。一番特徴をつかみにくいので、他の選択肢を先にみていくほうがよい。
- C **製造業生産額**が極めて高い。「世界の工場」とよばれる**中国**が該当する。豊富で安価な労働力を求めて各国の企業が中国に工場を置いている。また、13億人を超える国民が消費する食料をまかなう必要があるため、農林水産業生産額も非常に高くなっている。
- D **1人あたり国民総所得**が最も少ない。**インド**が該当する。情報通信産業を中心に経済発展が進んでいるが、工業化は大きく遅れている。農村部を中心に多くの国民はいまだ貧しく、平均所得は非常に低い。

問2. 難易度：★★★★☆

解答例

国土が広いので広大な用地を確保することができ、非常に人口が多く豊富な労働力を確保することが可能である。さらに豊富な天然資源を有しているのので有望な市場として注目されている。中国では改革開放後経済特区の設置などを進めて外国資本を積極的に取り込んでおり、インドも経済自由化を進め高い数学力と英語力を生かし情報通信産業を中心に発展しているほか、ロシアやブラジルは近年の資源価格の上昇を背景に自国の豊富な資源の輸出を拡大している。海外資本を受け入れることで農業から鉱工業へと主要産業を転換し、経済発展を遂げた。(250字)

解説

BRICsが経済発展を遂げた要因を考える問題。4か国に共通する特徴を挙げるということに気をつけよう。

まず、**国土の広さ**と**人口の多さ**が挙げられる。国土が広いので、広大な用地を確保することがたやすく、大規模な農業生産、工業生産が可能である。人口が多いため豊富な労働力を確保することができる点、国内市場の規模が大きい点もこれらの国の強みである。また、BRICs諸国は比較的賃金が安いので、労働集約的な工業を中心

に先進国の企業が進出している。豊富な**天然資源**を有していることも重要な要素である。ブラジルの鉄鉱石、ロシアの石油・天然ガス、インドの石炭、中国のレアメタルはいずれも有名である。

次に国ごとの経済発展の背景をみていこう。中国は社会主義国であるが、**改革開放政策**により**市場経済体制**をとるようになった。**経済特区**(**シェンチェン**<深圳>・**チューハイ**<珠海>・**スフトウ**<汕頭>・**アモイ**<廈門>・**ハイナントウ**<海南島>)の設置などを行い、外国資本を積極的に受け入れることで工業化を果たし、現在では世界1位の工業生産額を誇っている。世界的に経済が停滞している中、世界最大の人口と豊富な資源に支えられ、経済成長を続けている。インドも20世紀末から**経済自由化**を進めている。インド人の高い数学力と英語力に目をつけたアメリカ企業を中心に先進国の企業が進出しており、**情報通信産業**や**コールセンター業務**などが発達している。ロシアとブラジルでは特に**鉱業**が発達している。資源需要の高まりから資源価格は概ね上昇しており、両国の経済は急成長を遂げている。

このようにして、古くは農業など第一次産業が中心であった BRICs 諸国は鉱工業化を果たし、世界経済をけん引する存在になったのである。

問3. 難易度：★★★★☆

解答例

両国とも温暖な気候を生かし、植民地時代からプランテーションでの商品作物の栽培が発達してきた。ブラジルでは大規模農場で粗放的な農業が行われ、サトウキビ、コーヒー豆、大豆などの商品作物の生産が特に多い。インドでは労働集約的な農業が行われ、米、小麦などの自給的作物の生産が比較的多い。両国とも牛の頭数が多いが、ブラジルは企業の放牧による食肉の生産が多く、インドは宗教上の理由で牛乳の生産が多い。(194字)

解説

ブラジルとインドの農牧業における共通点と相違点を考える問題。気候・歴史的背景について述べてから、農業・牧畜業について共通点と相違点をそれぞれ1つずつ挙げられると、バランスのよい解答になる。

まず農業についてみていく。両国に共通しているのは気候が**温暖**であることである。温暖な気候を利用し、植民地支配を受けていた戦前には欧米列強によって**プランテーション**が形成され、**商品作物**の栽培が盛んに行われるようになった。現在の農業生産にもその影響が色濃く残っている。ブラジルのコーヒー豆、インドの茶はその代表例である。

両国の相違点は、**粗放的**か、**労働集約的**かという点に注目すると指摘できる。ブラジルは新大陸の広大な土地を生かし、**大規模農場**で**粗放的**な農業が営まれており、サトウキビ、コーヒー豆、大豆といった商品作物を多く生産している。インドも国土は広いが人口も多く、食料の消費量が多い。そのため零細農家を中心に**労働集約的**な農業が行われており、米、小麦などの**自給的作物**が比較的多く生産されている。

次に牧畜について考える。両国に共通しているのは**牛**の頭数の多さである。しかし牛の利用のしかたは大きく異なっている。ブラジルで飼育されている牛の多くは**肉牛**である。大規模農場で**企業の牧畜**が行われており、**食肉**の生産が多くなっている。ブラジルの牛肉生産量はアメリカ合衆国に次ぐ世界2位(2013年)である。対してインドでは牛を食用にすることはほとんどない。これは、インドで広く信仰されている**ヒンドゥー教**の教えで、

牛は神聖な生き物とされており、殺すことが禁じられているためである。それゆえ、**生乳**の生産や物資の運搬などに利用されることが多い。インドの牛乳の生産量は**白い革命**により大きく増加し、貧しい農民の貴重な収入源となっている。

※**白い革命**…経済発展に伴う生活水準の向上や冷凍技術の発達によりインドの牛乳消費が増加した動きのこと。

(來住直哉, 高橋粒)